

【1 分解説】異次元の少子化対策とは？

総合調査部 研究理事 谷口 智明

「異次元の少子化対策」とは、2023年1月に岸田首相が年頭会見で検討を表明した少子化対策のことです。「少子化問題は待ったなしの課題」であり「こども政策を体系的に取りまとめた上で、6月の骨太方針までに将来的なこども予算倍増に向けた大枠を提示していく」考えを示しました。

そこで、政府は12月に今後3年間を集中取組期間と位置づけた「加速化プラン」を含む「こども未来戦略」を閣議決定し、2024年6月に関連法案が可決・成立しました。本プランは、経済的支援の強化と若い世代の所得向上、子育て世帯への支援拡充、共働き・共育の推進、社会全体の意識改革という4つの柱で構成されています。特に注目されるのは経済的支援の強化で、児童手当の所得制限の撤廃や高校卒業までの支給期間の延長、第三子以降には支給額を3万円に倍増すること等が盛り込まれました。

一方で、本プランの実施には新たに3.6兆円の財源が必要となります。政府は既定予算の活用（1.5兆円）や社会保障の歳出改革（1.1兆円）、医療保険の保険料に上乗せされる「子ども・子育て支援金制度」の創設（1兆円）で確保する方針です。とりわけ新たな保険料負担の増加に対して、歳出改革と賃上げによって実質的な負担は生じないとする岸田首相の説明には異論もあります。少子化対策を社会全体で支えるためには、中・長期的な視点から様々な税財源を組み合わせ、社会全体で広く負担する必要があるのではないのでしょうか。